

まちの話題募集中

～あなたがまちの特派員～  
あんなことやこんなこと、いま街角で一番輝いている話題をお知らせください。取材に伺います。  
問合せ：秘書課 ☎8701



「第45回加西サイサイまつり」8月6日、7日に市役所駐車場で開催  
夜店と打上花火が揃った開催は3年ぶり

「第45回加西サイサイまつり」が8月6日、7日に市役所駐車場で3年ぶりに開催されました。

6日の前夜祭では、「平成の名曲モノマネのど自慢大会」を開催しオープニングを盛り上げました。また、ステージライブでは、「ピアニカの魔術師」が出演。会場を訪れた約1,000人が演奏に聴き入りました。

7日の本祭は、今年のテーマである「平成レトロ」を前面に出したパフォーマンスが繰り広げられ、パフォーマーによる躍動感ある演舞が披露されました。また、ミニ四駆コーナーや懐かしのテレビゲーム大会も行われ、平成レトロの雰囲気も多くの方が楽しみました。

まつりのフィナーレでは市民の皆さまにご協力いただいた花火募金を含む1,000発の花火が夜空を彩り、会場は大いににぎわいました。

花火募金のお礼とご報告

第45回加西サイサイまつり花火募金にたくさんのご協力ありがとうございます。

募金額合計：160,854円



広島を知る 参加生徒「衝撃的でした」

市は8月4日、市内中学生を対象にしたバスツアーや講演会などの平和事業を実施しました。一行は、平和記念公園内にある原爆ドームや原爆の子の像を間近に見た後、死没者慰霊碑の前で手を合わせました。また、平和記念資料館では被爆者の講話を聴き、後藤聡介君は「原爆の恐ろしさを改めて実感しました」と話しました。



命について学習 オリジナル太鼓完成

小学生を対象に、命を考える人権学習として、善防公民館で牛の革を使った太鼓作り教室が開催されました。コロナ禍の中、29組が参加し、いい音が出るように力を合わせ、革を張りながらオリジナルの太鼓を作りました。講師の「十八代目太鼓屋六右衛門」杉本大士さんからは、太鼓作りを通して、命の尊さや感謝の気持ちの大切さを教えていただきました。



加藤登紀子さん ヴォルケと合同練習会

10月1日に開催する「市制55周年記念 加藤登紀子日本酒の日コンサート2022」に先立ち、当日出演する「ヴォルケ」との合同練習会が行われました。加藤さんの代表曲である「百万本のバラ」を歌い上げ「素晴らしい歌声。本番が楽しみです」と話しました。



安全安心な地域社会を築く啓発活動を実施

保護司会加西分区や更生保護女性会、地区推進委員など約60名が犯罪を犯した人たちの再犯・再非行を無くし、“あやまち”からの立ち直りを支える地域をつくるための支援活動を行いました。毎年7月に実施しており、岡本会長は「安全な街を目指し、これからも犯罪予防活動を積極的にしていきたい」と話しました。



3年ぶりのカブトムシ列車 出発進行！

7月16日、17日の2日間、北条鉄道でカブトムシ列車が運行されました。8便全てが満席となる人気ぶりで、ボランティアの高校生から、つがいのカブトムシを虫かごに入れてもらい、のぞき込む子どもたち。車内では、カブトムシの標本が展示され興味津々に見入っていました。司会者がカブトムシの生態をクイズ形式で紹介。参加した小学生は、「クイズは簡単そうで、ちょっと難しかった」と感想を話してくれました。



フットサルワールドカップ加西大会を開催

NPO法人ねひめカレッジが主催するフットサル大会が、多目的グラウンドで開催されました。市内の事業所で働く外国人らが参加し、5カ国15チーム、約110名がスポーツを通じて交流を深めました。参加者たちは「楽しかった。また来年」と笑顔で話しました。



ゴーヤで温暖化対策 緑のカーテン事業

南部かしの木学園生の柳定行さん（鶉野町）が、南部公民館の花壇で、ゴーヤの栽培による緑のカーテンづくりを今年も始めました。施肥などの世話を一手に引き受け今年も多くの実が付きました。「カーテンのお陰で涼しい。周囲と5度は違う」と話しました。



ウツボカツラ 55.5cm でギネス記録認定

兵庫県立フラワーセンターで食虫植物のウツボカツラの捕虫袋が大きく育ち、8月20日ギネス認定記録に挑戦しました。これまでの記録を12.5cm上回る大きさで、ギネス認定員の方が「55.5cm」と発表すると、会場内に来場者からの歓声と拍手が響きました。30年以上育成してきた土居寛文さんは、「自分の自由時間を考えずに、ずっとやってきたので嬉しい」と目に涙を浮かべ話しました。

